

第2章

食料・農業・農村の現状と課題

●筑前町農業の位置（福岡県内 60 市町村比較）

- ①田耕地面積 2,140ha…………… 7位
- ②集落営農数 35 集落／50 集落…………… 2位
- ③二条大麦収穫量 2,960t…………… 1位
- ④大麦収穫量 928t…………… 2位
- ⑤米生産額 10.9 億円…………… 10位
- ⑥麦生産額 2.3 億円…………… 4位
- ⑦豆類 2.1 億円…………… 2位(野菜 16位)
- ⑧いも類 2千万円…………… 10位
- ⑨畜産 28.8 億円…………… 5位
- ⑩鶏 26.7 億円…………… 1位

出典：農林水産省統計情報（わがマチ・わがムラ）調査年 2020 年

第2章 食料・農業・農村の現状と課題

1. 自然・社会条件

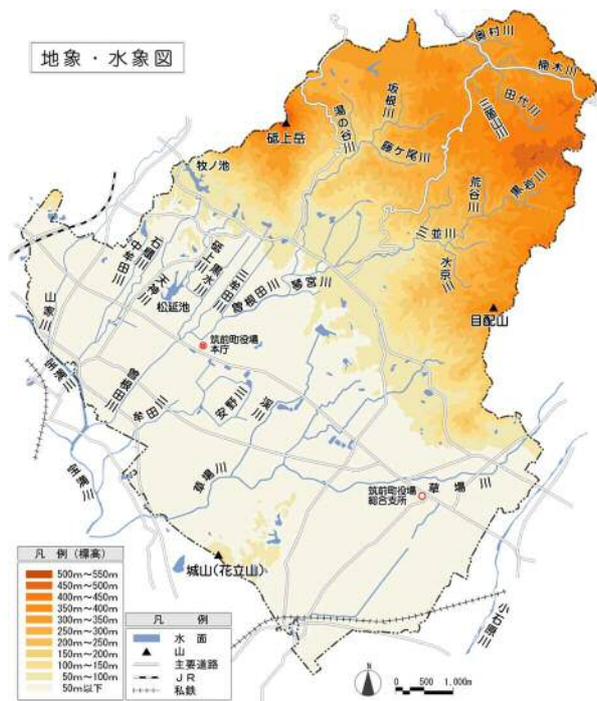
(1) 位置・面積

筑前町は、福岡県のほぼ中央部に位置し、東は朝倉市に、西は筑紫野市に、南は小郡市、大刀洗町に、北は飯塚市、嘉麻市に接しており、総面積は67.18km²となっています。

(2) 地形

筑前町の北東部は、三郡山系東部の砥上岳(496.5m)、夜須高原(300～500m)、目配山(405.1m)などが連なり、緑豊かな自然環境が広がっています。また、西端部には山家川、北部山麓から流下する曾根田川、南部には草場川が流れ、それぞれの流域に肥沃な土壌の水田地帯が形成されています。各河川は宝満川に合流し、さらに筑後川に合流しています。

また、南西の平野部に独立した標高130.6mの城山があり、その山麓一帯に若干の丘陵地形が形成されています。

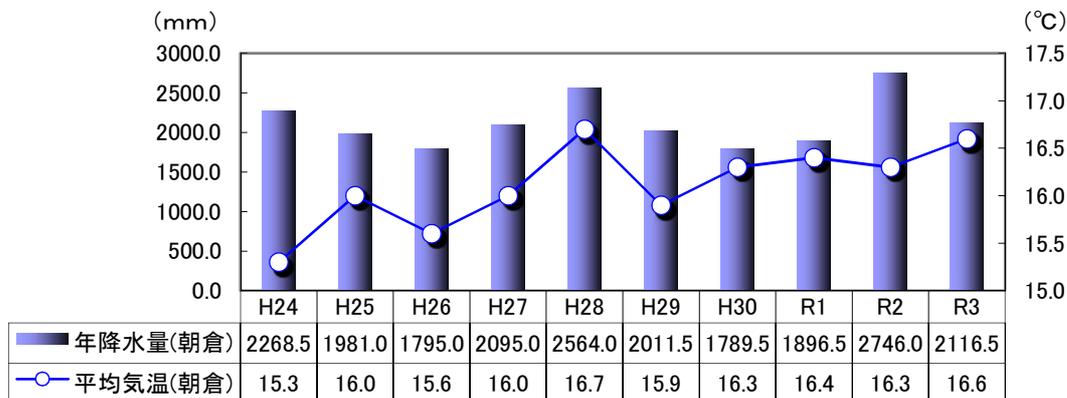


(3) 気象

気候は有明海に面した西九州内陸型で、昼間気温が高く、夜は冷え込みますが、山に囲まれているため風は弱くなります。

年間平均気温は16.1℃(平成24年～令和3年の平均)で、内陸性気候でありながら温暖です。年間降水量は、2,126.4mm(平成24年～令和3年の平均)で、県平均(1,836mm)を上回っています。

■ 気温と降水量の推移



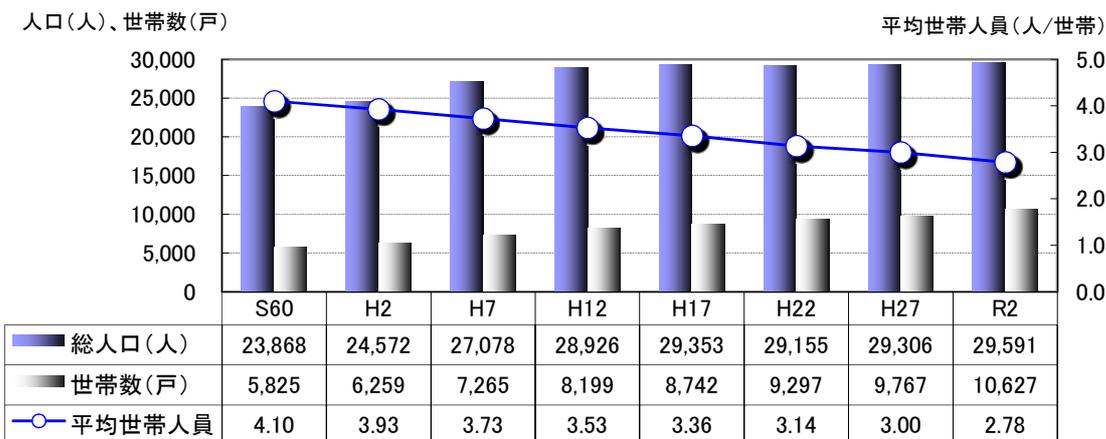
[資料: 福岡県気象月報]

(4) 人口

令和2年国勢調査の総人口は29,591人で、平成27年から令和2年の5年間に285人増加しています。世帯数は10,627世帯で、平成27年から令和2年の5年間に860世帯増加しており、人口、世帯数ともに増加傾向が続いていますが、一世帯当たりの人数は2.78人と減少傾向にあり、核家族化が進んでいます。

なお、令和4年11月の住民基本台帳月報では、総人口30,270人、世帯数12,035世帯で3万人を超えました。

■人口・世帯数と平均世帯人員の推移

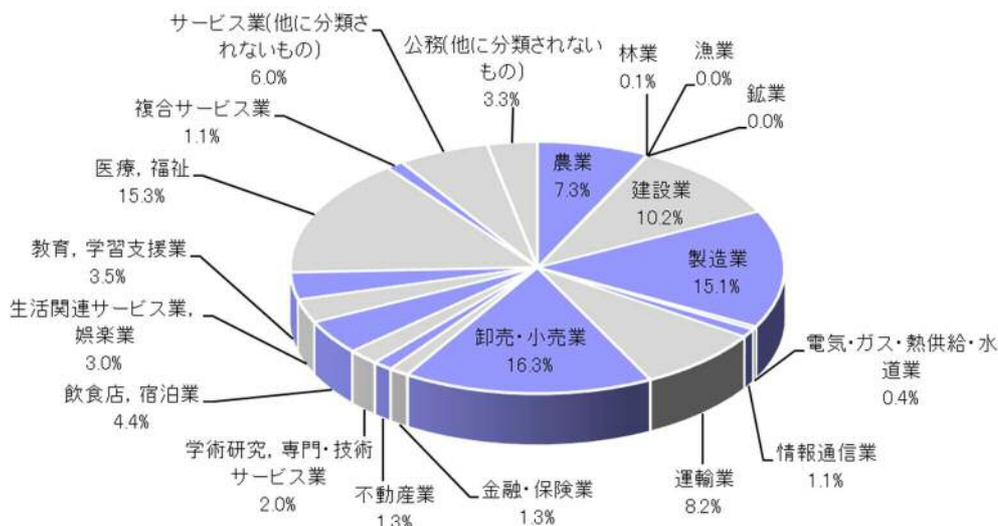


[資料:国勢調査]

(5) 産業

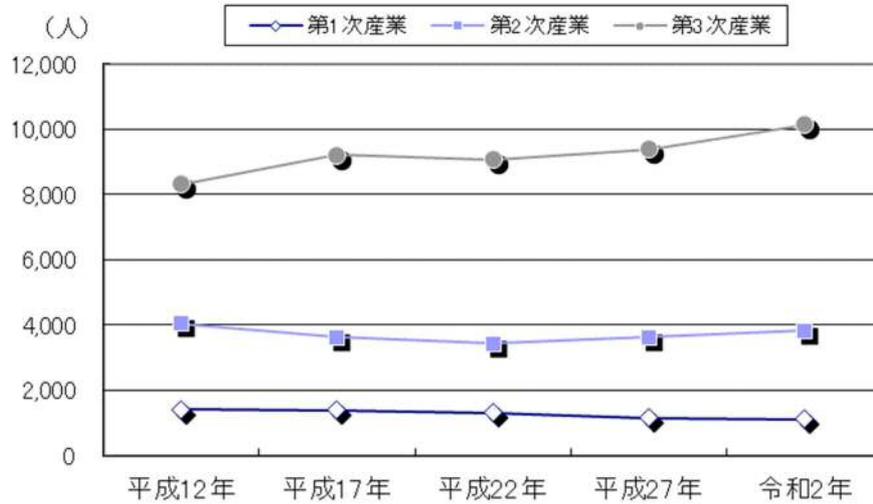
産業別就業者数の内訳は、第1次産業7.4%、第2次産業25.4%、第3次産業67.2%となっています。筑前町の基幹産業である農業者は年々減少傾向にあります。

■産業大分類の構成



[資料:令和2年国勢調査]

■就業者人口の推移



[資料：国勢調査]

(6) 交通

一般国道は町の中心地を貫き大分県へと通じる国道 386 号が基幹道路となっています。また、西部を通る国道 200 号とそれに並行する冷水道路、南部を通る国道 500 号があります。

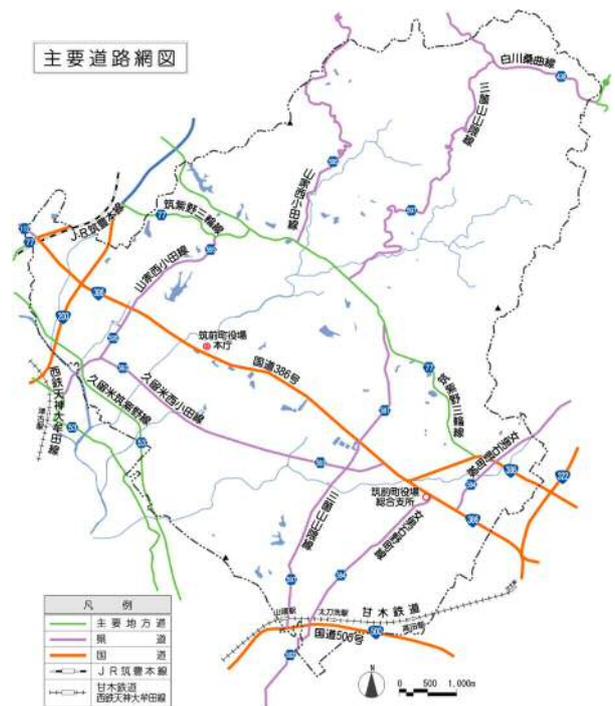
国道 386 号は、市街地で交通量増加による渋滞を解消するため、甘木バイパスが整備されています。県道は、主要地方道久留米筑紫野線、筑紫野三輪線などがありますが、その他の生活道路では未改良区間が多くなっています。

高速道路は、町南部に九州横断自動車道(大分自動車道)が走り、筑後小郡 I.C. 及び甘木 I.C. と接続しています。

鉄道は、町南部に第 3 セクターの甘木鉄道が走り 3 つの駅があります。また町北部には JR 筑豊本線が走っています。隣接する筑紫野市には西鉄天神大牟田線の駅があり、福岡都市圏や久留米広域圏への通勤・通学の移動手段として利用されています。

路線バスは、西鉄バスが運行しています。

福岡都市圏からの交通アクセスは、鉄道またはバスで約 1 時間です。

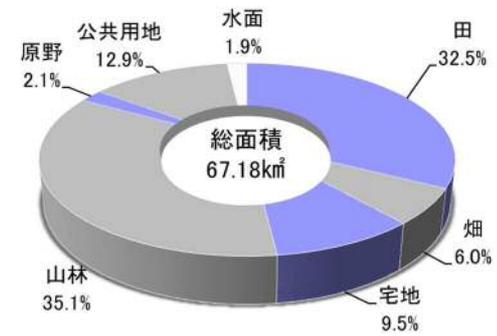


(7) 土地利用

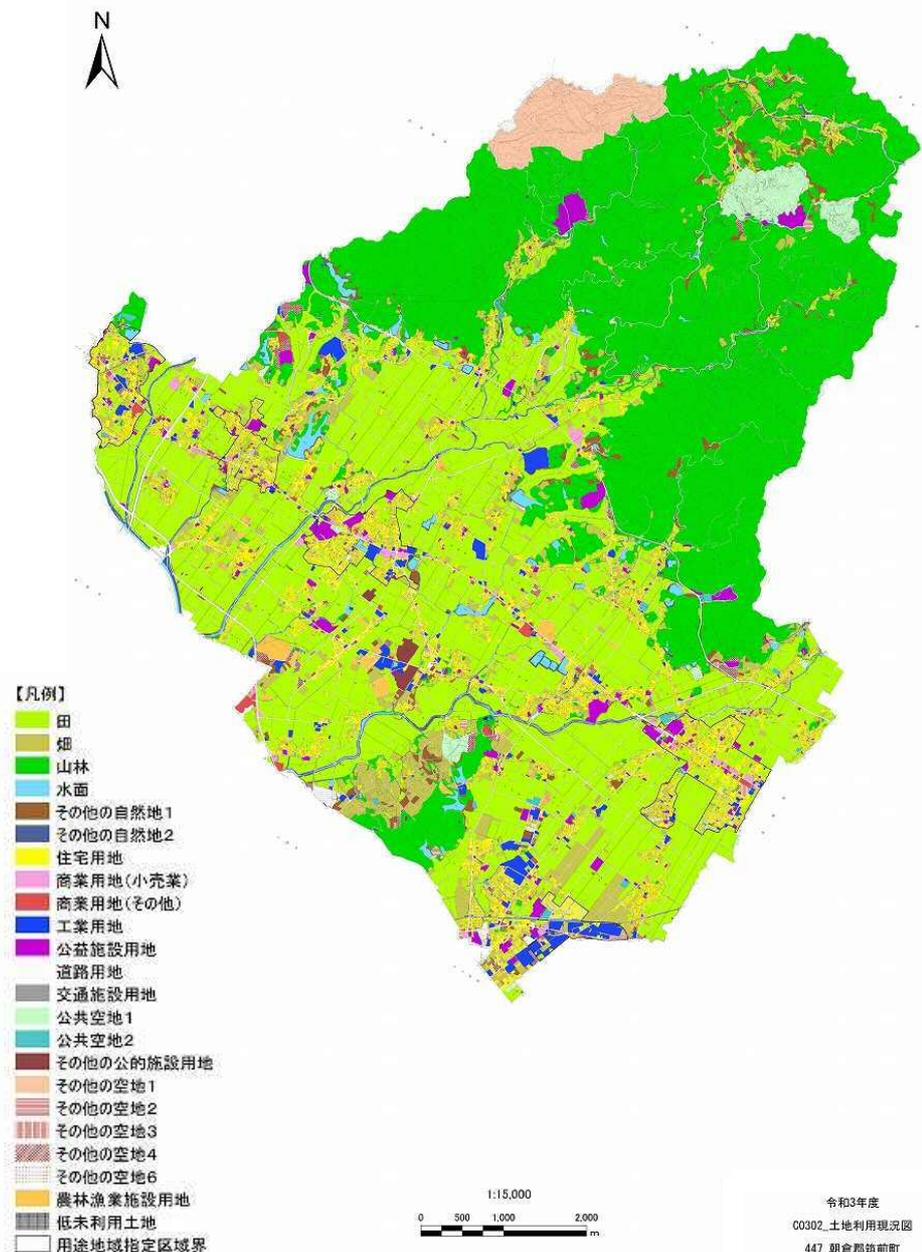
主要地方道筑紫野三輪線バイパスを境界とした北部は、全町面積の約 35% を占めるスギ、ヒノキの人工林、照葉樹林、モウソウ竹林等を主体とする山林があります。また、夜須高原一帯は公共の教育施設、福祉施設、レクリエーション施設及びゴルフ場が造成され県内外の利用者が多くなっています。

南部は、山麓、扇状地、平野で、畑や水田地帯となっています。国道 386 号またはバイパス沿線は都市的土地利用が進んでおり、南西部の城山山麓の丘陵地は、広い範囲で果樹園が形成されています。

■土地利用の割合



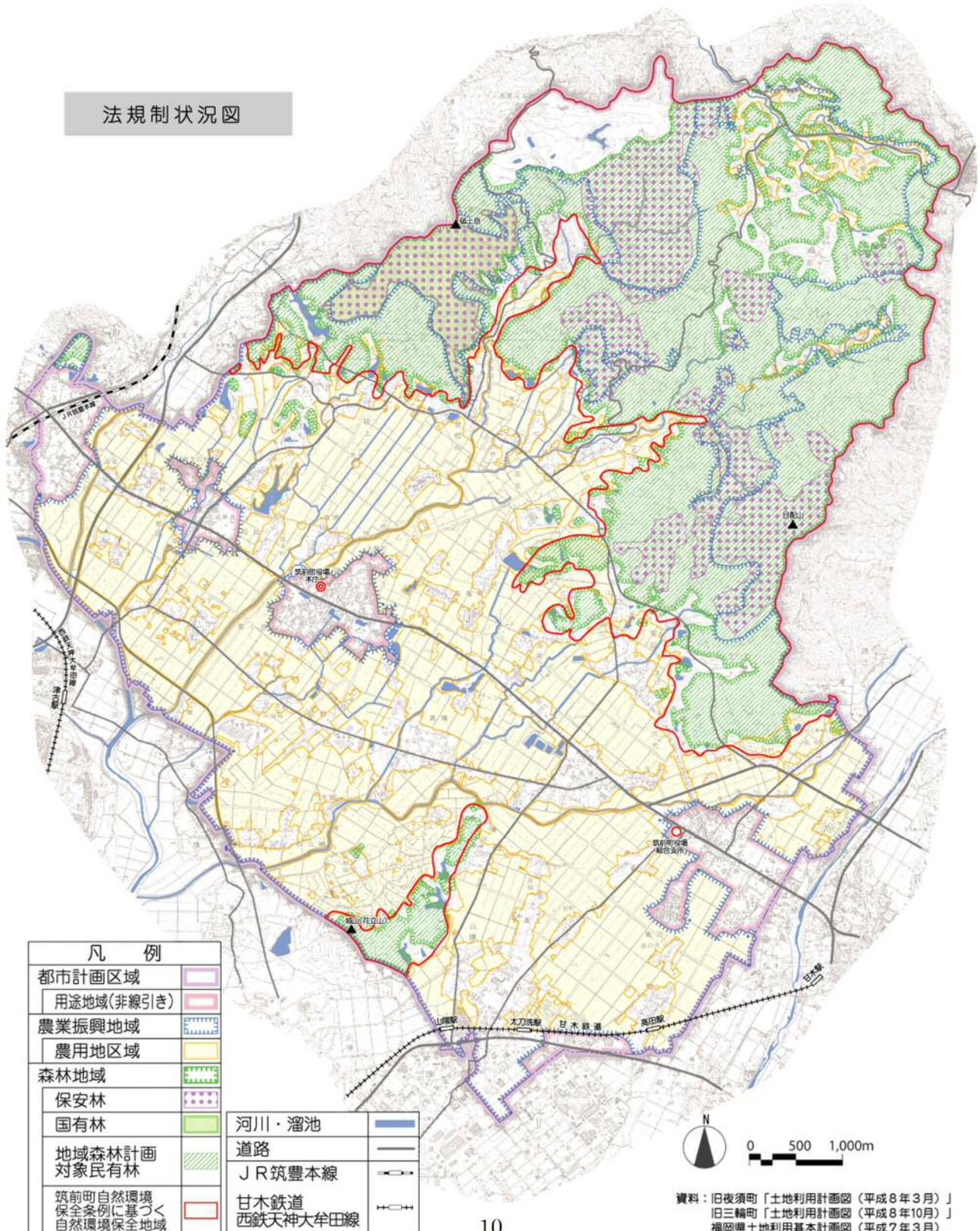
[資料: 筑前町都市計画基礎調査(令和3年)]



(8) 法規制

土地利用関連の法規制状況では、農業振興地域は町域の8割程度ですが、うち農用地が4割程度を占めています。町全域は都市計画区域に指定していますが非線引きであり、用途地域は国道386号・500号沿いに分散しています。また、法令に基づく自然公園地域や自然保全地域はありませんが、「筑前町自然環境保全条例」に基づく自然環境保全地域が山間部を中心に指定されています。

法規制状況図



(9) 観光

筑前町の観光資源は北部一帯に広がる夜須高原に、県立夜須高原記念の森、国立夜須高原青少年自然の家、ゴルフ場など高原の自然を活かした観光地があります。筑前町立大刀洗平和記念館、大己貴神社、仙道古墳の歴史資源、農産物直販所は「ファーマーズマーケットみなみの里」、「いちご」、「とまと」、「じょんやま」、「やまびこ」市場、南部は花立山温泉があります。また、朝倉広域観光の拠点として「まちの駅」があります。

町内年間入り込み客数は 191 万人で日帰り、県内からの客がほとんどです。今後、多様な自然、農業、歴史資源を活かし、年間を通じて体験型、宿泊型の観光客が訪れることが望まれます。筑前町のファーマーズマーケットみなみの里は、平成 21 年 4 月にオープン以来、観光客が増えています。

	名称	H28	H29
町内	県立夜須高原記念の森	155,869	170,275
	安の里公園	-	50,000
	筑前町立大刀洗平和記念館	100,466	103,474
	カルナパーク花立山温泉	252,971	252,871
	ファーマーズマーケットみなみの里	745,917	1,079,074
	仙道古墳	7,400	6,500
	焼峠古墳	580	685
近隣	道の駅くるめ	-	757,500
	道の駅みやま	271,000	276,400
	べんがら村	208,784	219,329
	道の駅うきは	1,160,868	-
	くるるん夢市場	141,262	137,617

福岡県統計情報(平成29年福岡県観光入込客推計調査)

入り込み客と消費額

内訳	筑前町		久留米市	うきは市	小郡市
	H28	H29	H29	H29	H29
総数:千人	1,616	1,915	5,912	2,298	824
日帰り	1,496	1,805	5,504	2,265	824
宿泊	120	110	408	33	0
県外	71	98	1,622	782	247
県内	1,545	1,817	4,290	1,516	577
消費額:百万円	12,575	1,328	12,686	2,103	990

福岡県統計情報(平成29年福岡県観光入込客推計調査)

目的別(H29)

単位:千人

内訳	筑前町	久留米市	うきは市
自然	338	219	74
歴史・文化	122	3,091	139
温泉・健康	253	284	64
スポーツ・レクリエーション	70	120	100
都市型観光	1,079	-	32
その他観光地点	-	757	1,835
行祭事・イベント	53	1,441	54
計	1,915	5,912	2,298

福岡県統計情報(平成29年福岡県観光入込客推計調査)

(注)平成 30 年より統計方法変更のため個別のデータがない。



■筑前町ショートトリップマップ



■県立夜須高原記念の森



■筑前町立大刀洗平和記念館

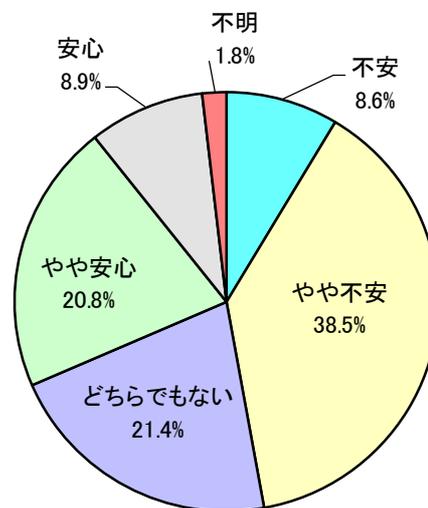
2. 食料の現状

(1) 食の安全

近年は安全な農産物に対する関心の高まりや、将来の食糧不足への備えに対する懸念から、国産・地元産農産物に対する消費者の意識が高まっており、長期的な視点に立った安全で安心できる農産物の生産が求められています。

国は国際的な動向等に対応した食品の安全確保と消費者の信頼の確保のため科学的根拠に基づき、食品の生産から消費に至るまでの必要な段階で有害化学物質・微生物の汚染防止や低減を図る措置を策定・普及しています。

町民アンケート調査によると、日頃の食の安全性について、「やや不安」と感じている人が38.5%で最も多く、次いで「どちらでもない」が21.4%でした。



■ 田園風景（春）



■ 田園風景（秋）

(2) 食育

町民が、心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすためには、町民一人一人の「食」の充実が大変重要であると言えます。

「食」はすべての生活の基本であり、「心身の健康」のみならず、「食を通じたコミュニケーション」「地域の伝統文化の継承」「自然との共生」など、あらゆる分野にわたり、私たちの生活において重要な役割を担っています。

しかしながら近年、ライフスタイルや価値観の変化などとあいまって、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、食の安全への不安（偽装表示や残留農薬の問題）さらには、食を支える農業の厳しい情勢など「食と農」を巡る様々な問題が生じています。

こうした状況の中、あらためて「食と農」の在り方を方向付け、「食育」を国民運動として推進していくため、平成17年6月に「食育基本法」が成立しました。

筑前町においても、平成22年6月に「筑前町食育推進基本計画」を策定し、様々な分野における食育の推進を進めてきました。さらに、令和2年2月に「第3次筑前町食育推進計画」が策定されました。



■子どもたちの給食

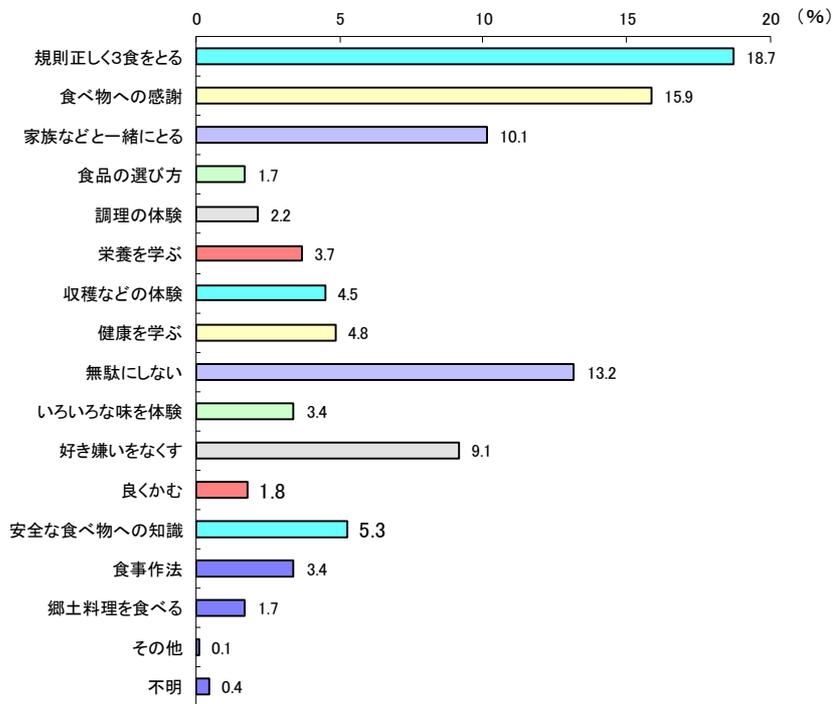


■筑前煮



■農業体験

町民アンケートによると食育での重要度では、「規則正しく3食をとる」が18.7%と一番多く、次いで「食べ物への感謝」が15.9%、「無駄にしない」が10.1%となっています。



また、三輪小学校では「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進しています。実態や工夫等を把握し今後の参考にするためにアンケートを実施しています。

第一回アンケート結果(R4.7 実施)

第二回アンケート結果(R4.12 実施)

<p>① 何時頃起きている？</p> <p>6時までに起きる 92人</p> <p>6時～7時 477人</p> <p>7時～8時 36人</p> <p>決まっていない 3人</p>	<p>④朝ごはん食べてる？</p> <p>毎日食べる 546人</p> <p>週5日位食べる 32人</p> <p>週3日位食べる 24人</p> <p>まったく食べない 3人</p>	<p>①何時頃起きている？</p> <p>6時までに起きる 74人</p> <p>6時～7時 417人</p> <p>7時～8時 41人</p> <p>決まっていない 4人</p>	<p>④おかずは食べている？</p> <p>毎日食べる 202人</p> <p>週5日位食べる 64人</p> <p>週3日位食べる 144人</p> <p>まったく食べない 130人</p>
<p>②朝、気持ちよく起きている？</p> <p>はい 329人</p> <p>いいえ 105人</p> <p>どちらでもない 170人</p>	<p>⑤食べない理由は？</p> <p>時間がない 25人</p> <p>お腹がすかない 37人</p> <p>食べない習慣 1人</p> <p>その他 6人</p>	<p>②朝ごはん食べてる？</p> <p>毎日食べる 504人</p> <p>週5日位食べる 25人</p> <p>週3日位食べる 18人</p> <p>まったく食べない 4人</p>	<p>⑤野菜はたべている？</p> <p>毎日食べる 54人</p> <p>週5日位食べる 53人</p> <p>週3日位食べる 121人</p> <p>まったく食べない 274人</p>
<p>③何時ごろに寝ている？</p> <p>9時前には寝る 113人</p> <p>9時～10時 375人</p> <p>10時～11時 95人</p> <p>11時を過ぎて 6人</p> <p>決まっていない 3人</p>	<p>⑥朝ごはん誰と食べている？</p> <p>家族全員 58人</p> <p>誰か大人と一緒に 192人</p> <p>子どもだけ 255人</p> <p>ひとり68人</p>	<p>③朝ごはんの内容は？</p> <p>ごはんとおかず 310人</p> <p>パンとおかず 169人</p> <p>ごはんのみ 89人</p> <p>パンのみ 189人</p> <p>菓子パン・シリアルのみ 55人</p> <p>おかずのみ 12人</p>	<p>⑥果物は食べている？</p> <p>毎日食べる 22人</p> <p>週5日位食べる 27人</p> <p>週3日位食べる 151人</p> <p>まったく食べない 323人</p>

令和4年三輪小 PTA 健康福祉委員会作成

(3) 流通・消費

我が国の食料の必要量は国内生産のほか多くは外国から輸入しています。我が国の自給率は40%を切りましたが、筑前町は米、麦、大豆の栽培を主とし、養鶏業も盛んなことから、カロリーベースで試算すると自給率が150%を超えています。

一般的には、米の消費が減り肉類が増加して、食生活が変化したことで自給率が低下したと言われます。また、中食などの食の外部化が進み食品加工産業需要が大きくなっています。

地産地消は地域で生産された農作物を地域で消費することで、地域の振興や食の安全安心に貢献します。

筑前町の農産物直売所は次のものがあります。筑前町の特産品は米のほかイチゴやナシのほか納豆、味噌、豆腐など筑前クロダマルの加工品も販売しています。

- ・旬菜ひろば「とまと」（篠隈：A コープ夜須店）
- ・農産物直売所「いちご」（久光）
- ・「じょんやま市場」（四三嶋）
- ・餅と饅頭の直売所「やまびこ」（曾根田）
- ・ファーマーズマーケットみなみの里（三並）

また、学校給食への地元農産物利用を計画的に行っています。今後、都市部と連携した流通や食品産業との農商工連携が望まれています。



■旬菜ひろば「とまと」



■農産物直売所「いちご」



■ファーマーズマーケットみなみの里



■みなみの里（店内）



■じょんやま市場

■筑前町の特産品



■筑前クロダマル



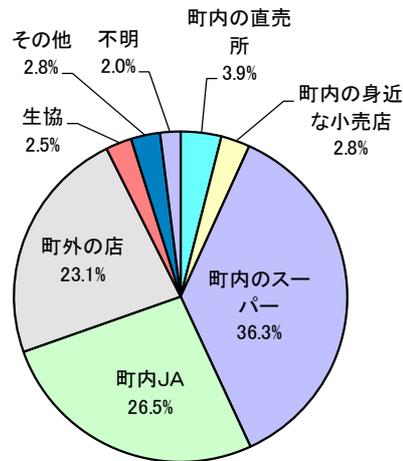
■特産加工品



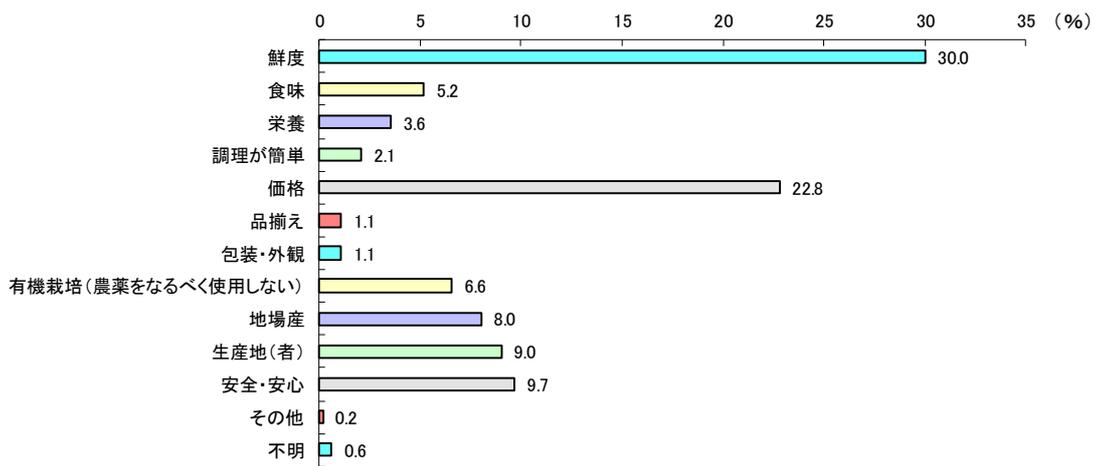
■木酢（きず）



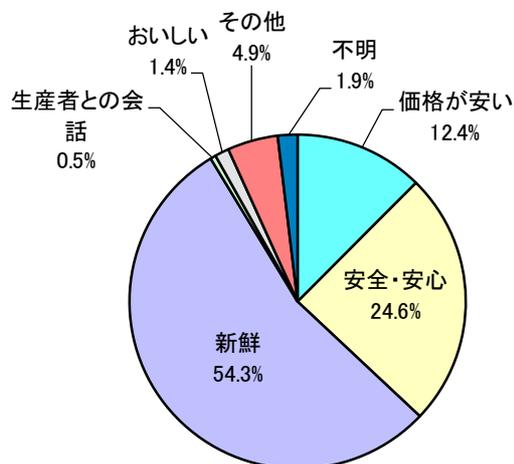
町民アンケートによると、食品の購入先は、「町内のスーパー」「町内JA」で約6割の町民が購入しています。



農産物を購入するときに重視していることは、「鮮度」、「価格」、「安全・安心」の順になりました。



直売所については、「新鮮」と感じている人が最も多く、次いで「安全・安心」でした。



3. 農業の現状

(1) 農業経営体・担い手

農家総戸数 717 戸は町全体 10,627 戸の 6.7% を占めます。そのうち販売農家戸数は平成 12 年に 1,205 戸であったものが 20 年間で半減し、令和 2 年に 517 戸に減少しており、専業農家より兼業農家の減少が大きい傾向にあります。

令和 2 年の主業経営体数は 156 経営体、準主業経営体数は 82 経営体、副業的経営体数は 280 経営体となっています。

町の就業人口 15,105 人の 8% を占める農業従事者は、令和 2 年は 1,317 人で、年々減少しています。特に、60 歳以上が過半数を占める基幹的農業従事者の高齢化が進んでいます。

経営耕地面積は、平成 12 年に 2,282ha、令和 2 年は 2,123ha となって、減少傾向にあります。内訳は田が 1,990ha、93.7% も占めています。

経営規模は 2.0~3.0ha が多く、農業の営農支援・担い手確保のため、農作業受委託及び 50 集落のうち 35 集落が集落営農による農業の集団化が進められています。

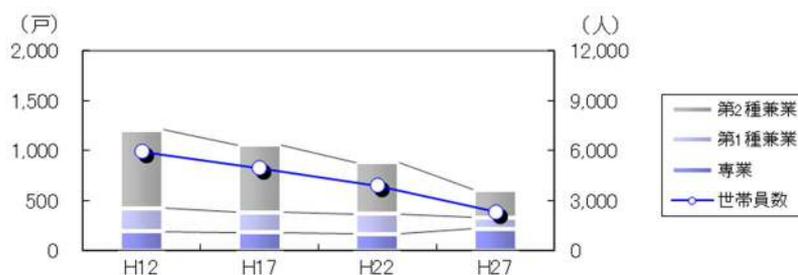
法人化している経営体は 12 あります。団体経営は 27 団体です。また、認定農業者は 131 名で、農業センサスによると 545 経営体のうち 144 経営体がデータを活用し農業を行い、201 経営体が 5 年以内に後継者を確保可能としています。また、56 経営体が有機農業に取り組んでいます。さらに、スマート農業の導入を支援し、農業の省力化及び効率化を図っています。

■販売農家戸数と世帯員数の推移

年次	販売農家 ^{※1} 戸数				世帯員数	自給的農家	総戸数
	総数	専業・兼業別					
	(戸)	専業 ^{※2}	第1種兼業 ^{※3}	第2種兼業 ^{※4}	(人)		
平成 12 年	1,205	190	231	784	5,936	171	1,376
平成 17 年	1,055	181	201	673	4,950	177	1,232
平成 22 年	880	163	199	518	3,897	172	1,052
平成 27 年	608	213	114	281	2,306	220	828
令和 2 年	517	- (注)	- (注)	- (注)	-	200	717

資料：農林業センサス2020

(注)2020年から統計変更



■販売農家戸数と世帯員数の推移

※1販売農家：農家は自給的農家と販売農家で構成されるが、後者は経営耕地面積 30a以上または農産物販売金額が年間 50 万円以上の農家。
 ※2専業農家：世帯員のなかに兼業従事者が1人もいない農家。
 ※3第1種兼業農家：世帯員のなかに兼業従事者が1人以上おり、かつ農業所得の方が兼業所得よりも多い農家。
 ※4第2種兼業農家：世帯員のなかに兼業従事者が1人以上おり、かつ兼業所得の方が農業所得よりも多い農家。

■年齢別農業従事者(人) 2020

年齢	男	女	計	割合
15～19	16	8	24	1%
20～29	32	15	47	3%
30～39	71	35	106	6%
40～49	81	59	140	8%
50～59	108	93	201	11%
60～64	80	63	143	26%
65～69	101	111	212	
70以上	245	199	444	25%
計	734	583	1,317	100%

■年齢別基幹的農業従事者(人) 2020

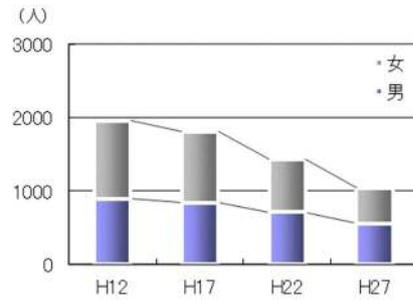
年齢	男	女	計	割合
15～19	2	2	4	0%
20～29	6	1	7	0%
30～39	22	5	27	1%
40～49	38	16	54	3%
50～59	50	34	84	5%
60～64	45	30	75	26%
65～69	89	69	158	
70以上	208	132	340	19%
計	460	289	749	100%

■農業就業人口の推移

年次	総数 (人)	内 訳	
		男	女
平成 12 年	1,955	893	1,062
平成 17 年	1,809	841	968
平成 22 年	1,431	715	716
平成 27 年	1,040	562	478
令和 2 年	- (注)	- (注)	- (注)

資料:農林業センサス2020
(注)2020年から統計変更

■農業就業人口の推移



■経営耕地面積の推移

経営耕地面積

年次	総面積 (ha)	内 訳		
		田	畑	樹園地
平成 12 年	2,282	2,106	97	79
平成 22 年	2,196	2,061	83	52
令和 2 年	2,123	1,990	110	23

資料:農林業センサス2020

■経営耕地面積規模別経営体数

(ha)	(戸)
0.3未満	9
0.3～0.5	27
0.5～1.0	73
1.0～1.5	70
1.5～2.0	71
2.0～3.0	93
3.0～5.0	89
5.0～10.0	63
10.0～20.0	23
20.0～30.0	10
30.0～50.0	6
50.0～100.0	1

資料:農林業センサス2020



■水田



■樹園地

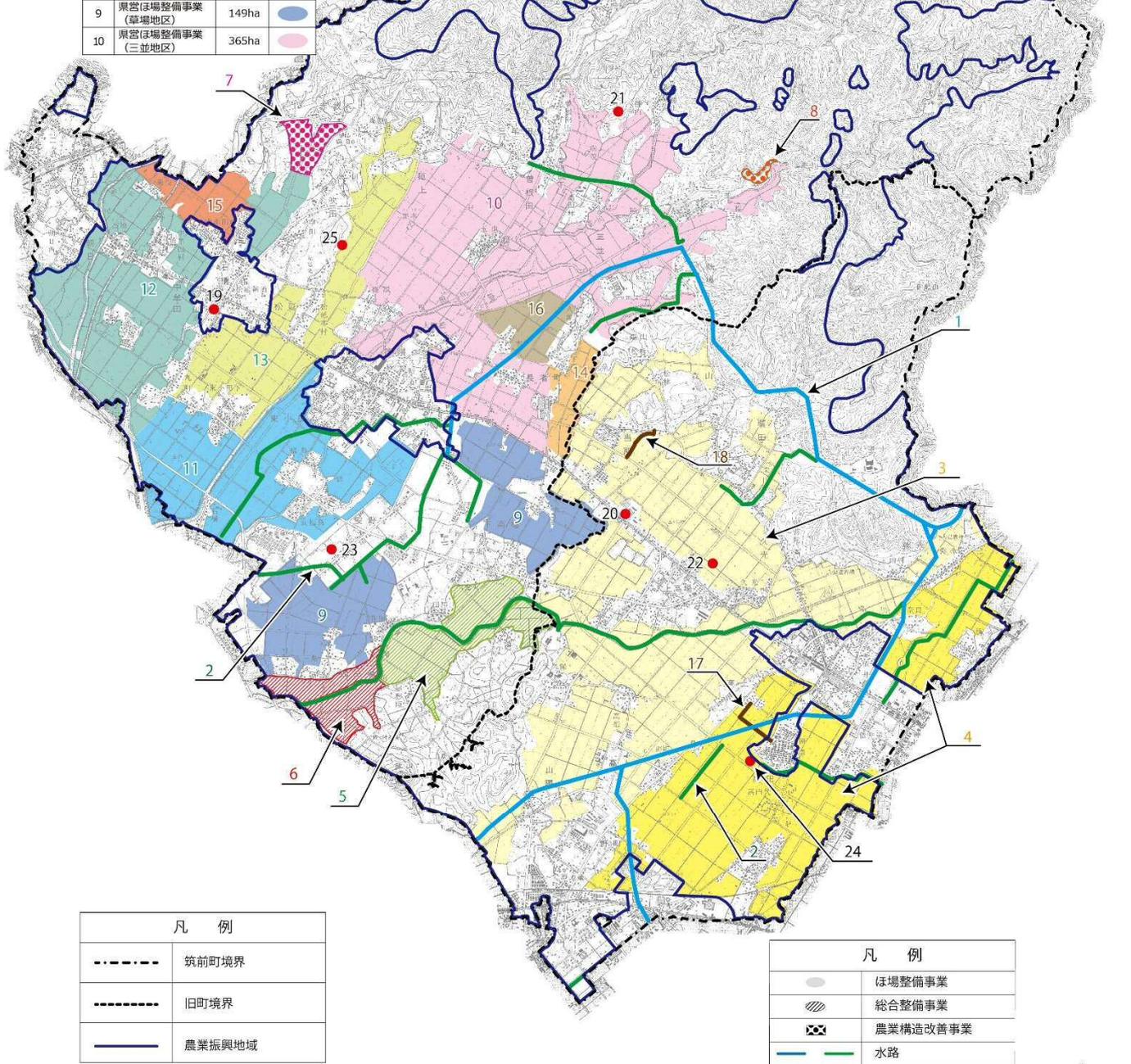
(2) 農地

基盤整備は、ほ場整備が100%完了し、今後は道路、水路の維持・改良が課題です。ため池は、劣化状況評価や地震耐性評価が行われています。

対図番号	事業種目	受益面積	凡例
1	公団宮内筑平野 用水事業(第1期)	5,915ha	—
	公団宮内筑平野 用水事業(第2期)	4,675ha	—
2	県営かんがい排水 事業	4,069ha	—
3	県営ほ場整備事業 (第1期)	503ha	●
4	県営ほ場整備事業 (第2期)	527ha	●
5	農村基盤総合整備 事業(夜須地区)	71.2ha	■
6	農村基盤総合整備 事業(四三島地区)	30.5ha	■
7	新農業構造改善 事業(赤坂地区)	15.3ha	■
8	農業農村活性化 農業構造改善事業 (法福寺地区)	1.75ha	■
9	県営ほ場整備事業 (草場地区)	149ha	●
10	県営ほ場整備事業 (三並地区)	365ha	●

対図番号	事業種目	受益面積 事業量	凡例
11	県営ほ場整備事業 (東小田地区)	151ha	●
12	県営ほ場整備事業 (中牟田地区)	176ha	●
13	県営ほ場整備事業 (中牟田第2地区)	114ha	●
14	県営ほ場整備事業 (畑島地区)	21.0ha	●
15	県営ほ場整備事業 (山家地区)	79.0ha	●
16	県営ほ場整備事業 (一本地区)	30.2ha	●
17	農道舗装	野町地区 L=569.0m W=4.0m 舗装面積(m) A=1,970.36	—
18	農道舗装	当所地区 L=383.0m W=4.0m 舗装面積(m) A=1,425.94	—

対図番号	事業種目	事業量	凡例
19	土地改良総合整備 事業(中牟田)	農道 L=18,703m 用水 L=1,615m 集落道路 L=567m	●
20	土地改良総合整備 事業(三輪)	暗渠排水 A=63.9ha	●
21	水環境整備事業 (地域用水環境整備 事業)(前根田)	親水景観施設 利用保全施設	●
22	一般農道整備事業 (三輪北部)	農道舗装 L=4,730m	●
23	一般農道整備事業 (東小田)	農道舗装 L=19,869m 棟梁工1ヶ所	●
24	農村総合整備モデル 事業(三輪)	-	●
25	農村総合整備モデル 事業(夜須)	-	●



凡例	
---	筑前町境界
---	旧町境界
—	農業振興地域

凡例	
●	ほ場整備事業
■	総合整備事業
■	農業構造改善事業
—	水路
—	道路
●	県営事業



基礎資料付図1号 農業生産基盤整備状況図
福岡県 筑前町

筑前町の全体の土地面積は 6,718ha、耕地面積は 2,350ha で約 35%を占めます。内訳は、田 2,140ha で多くを占め、畑 208ha で少ないのが特徴です。作付延べ面積は 4,190ha で、耕地利用率は 164%で良い傾向にあります。

農振地域は 5,464ha で町全体の 82%を占め、農用地区域は 2,131ha が指定され優良農地の保全がされています。

利用権設定は 47.8%で、耕作放棄地は 2,350ha のうち 3%で土地持ち非農家の農地が過半数です。

機械利用組合は無人ヘリや大豆生産に関わっています。

多面的機能支払交付金では 36 団体が参加し農業資源の維持管理をしています。対象面積 2,131ha のうち 1,949ha (91%) が実施されています。

中山間地域等直接支払制度は、1 地区（坂根地区）を集落協定に基づき、耕作放棄の防止等の活動を行っています。

耕地面積

	耕地面積	田耕地面積	畑耕地面積
	計	計	計
	ha	ha	ha
平成12年	2,620	2,344	286
平成17年	2,560	2,300	257
平成27年	2,490	2,270	216
令和2年	2,350	2,140	208

福岡県農林水産統計年報



■ ブロックローテーション

	全体 (ha)
農振地域	5,464
農用地区域	2,131

[資料:農業振興地域整備計画]



■ 耕作放棄地



■ 無人航空機による防除

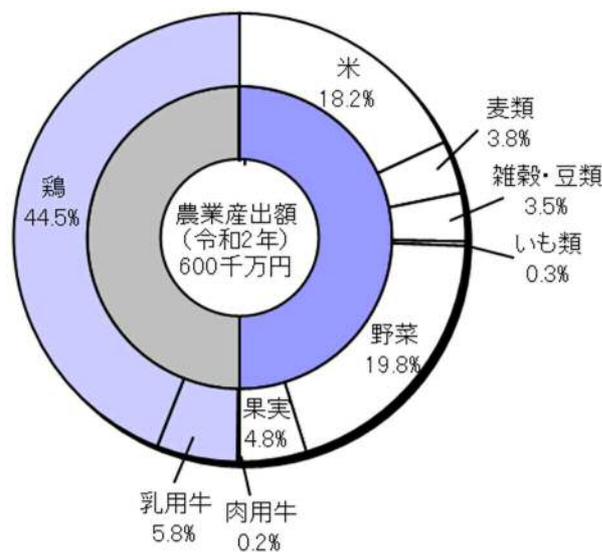


■ 多面的機能を支える活動

(3) 農業生産

筑前町では農業が盛んに行われており、広大で肥沃なほ場における米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業を基本に、果樹ではぶどう・なし、野菜ではなす・きゅうり・ごぼう・いちご等の栽培が盛んで、畜産では鶏（卵）と乳牛が特徴です。

また、安心・安全な農産物の生産のため、環境保全型の農業にも取り組んでいます。2020年では農業産出額合計は60.0億円で、うち米が10.9億円、野菜が11.9億円、鶏が26.7億円となっています。



[資料: 農林水産省「生産農業所得統計」]

■農業産出額の構成

■農業産出額の推移

単位: 1000万円

		1990	1995	2000	2005	2020
耕種	米	224	264	143	132	109
	麦類	82	82	88	91	23
	雑穀・豆類	15	18	43	37	21
	いも類	7	2	3	4	2
	野菜	87	103	109	88	119
	果実	40	42	44	32	29
	花き	3	9	9	8	*
	工芸・農作物	1	0	0	0	0
	種苗・苗木類・その他	4	4	3	1	*
畜産	肉用牛	18	11	11	*	1
	乳用牛	64	47	49	46	35
	豚	11	3	3	*	*
	鶏	200	159	154	182	267
	その他・畜産物	0	0	1	*	0
合計		755	743	659	633	600

Fukuokadataweb (年報・農林水産業)

この表は、農林水産省「生産農業所得統計」による。

注) 四捨五入の関係で、個々の積み上げと合計が一致しない場合がある。

資料 九州農政局福岡統計・情報センター「福岡農林水産統計年報」

(単位、年次: 億円 市町村: 1000万円)

水稻の作付面積は現在、1,150ha、収穫量5,230t、小麦は1,030ha、3,910t で量的に多くを占めますが、果樹ではナシが、野菜ではきゅうり、レタス、キャベツ、たまねぎ、ねぎ、なす等は県内市町村でも生産量が多くなっています。



■イチゴ



■ナシ



■木酢 (きず)



■筑前クロダマル

おいしい野菜や果物などが
いろいろあります。

古くから農業が盛んで、米、野菜、果物などの農産物が豊富です。また町内の直売所では、地元で丹精込めて作った新鮮な農作物や加工品を手軽に購入できます。

いちご(あまおう)	いちじく(とよみつひめ)	なし
なす	とまと	きゅうり
大豆(味噌・納豆)	ごぼう	しいたけ
米	麦	

「地産地消」の美味しさにふれる

■農産物

【水田農業ビジョン・筑前町作付ビジョン】

筑前町は水稲・麦・大豆を中心とした土地利用型農業が盛んな地域である。全水田面積に対する主食用水稲の作付面積は約 60%で、転作作物については大豆を主軸とし、町全域にわたって集落ごとに水稲・大豆のブロックローテーションにより、米の生産調整を実施してきた。

町内の中山間地域を除く全域に集落営農組織が組織され、土地利用型農業の大部分は、これら集落営農組織または認定農業者といった担い手に集約されている。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中、水稲以外の作物で水田面積を維持していくためには、主軸の大豆の作付面積拡大あるいは、野菜施設園芸や果樹園芸を定着させる必要がある。

・主食用米

需要に応じた生産を基本にしつつ、産地間競争に打ち勝つために、良食味品種の作付け、基本技術の徹底による安定した生産を図り、共同乾燥調製施設を活用した高品質調製に取組み、「売れる米づくり」を推進する。

・麦

土地利用型農業の推進において重要な作物として位置付け、良品質麦の安定的な生産に向けて、排水対策・中耕培土等の基本技術の徹底を図る。また、冬季の主要作物として、土地利用率の向上を図り、実需者のニーズに応える生産量を確保するため、産地交付金により支援し、集落営農組織等の担い手が作付する麦の作付面積を現行の 1,655ha から H30 年度には 1,740ha に拡大するとともに、単収の向上に努める。

・大豆

高品質な大豆生産を図るため、適期播種及び排水対策・中耕培土等の基本技術の徹底を推進する。さらに、産地交付金により土づくりを支援することで、品質・生産量ともに需要者のニーズに対応出来る安定した生産体制を確立する。これらのことを踏まえ作付面積を現行の 628ha から H30 年度には 700ha に拡大する。また、水稲とともに夏季の主要作物として位置付け、水系を基本とした団地化及びブロックローテーションによる連作障害の回避を図り、国産大豆のトップブランドとしての地位を確立する。

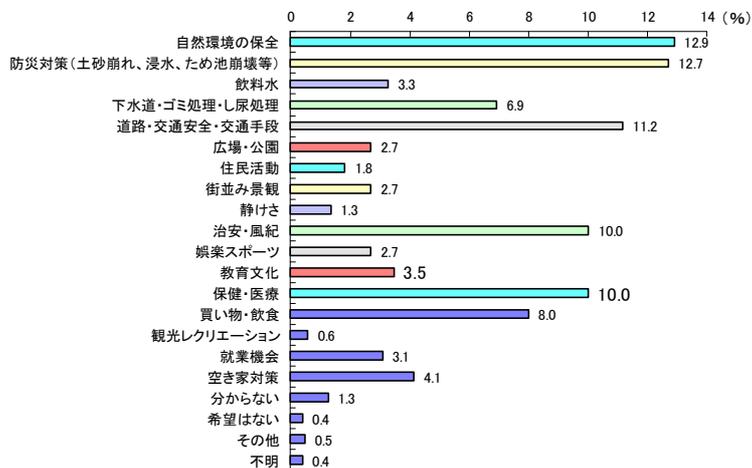
・野菜、花き・花木、果樹

指定産地となっている指定作目（冬春なす、冬春きゅうり、レタス、いちご）を基幹品目として、地域ごとの立地条件に適応した他作目との複合による輪作体系の確立と品種・作型の組合せによる周年化を進め、収益性の向上と労力分散により野菜農家の経営基盤の強化を推進する。また、加工・業務用の野菜や花き・花木及び果樹についても、転作水田の有効活用、農家の経営基盤強化のため振興を図るため、産地交付金で作付支援を行い、今後の作付面積の維持・拡大を図る。

4. 農村の現状

(1) 生活環境

アンケートによると、快適な生活環境づくりに必要なことについては、「自然環境の保全」が12.9%と最も多く、次いで、「防災対策（土砂崩れ、浸水、ため池崩壊等）」12.7%でした。



①保健衛生

筑前町は、令和2年度の給水普及率は54.9%にとどまっています。現在、福岡県南広域水道企業団に加入し、水道事業を進めています。

水洗化率は、令和2年度末現在83.8%で着々と整備が進んでいます。

②公園

1人当たりの都市公園面積は、令和3年度末現在で7.06㎡/人と福岡県の9.3㎡/人と比べて少ない状況にあります。



■安の里公園



■緑とスポーツのふれあい広場



■多目的運動公園「筑前ぽぽろ」

③歴史・文化資源

国指定文化財は3件、町指定が7件ありますが、国指定史跡「焼ノ峠古墳」、同「仙道古墳」や町指定天然記念物「上高場の大藤」、「松峡八幡宮の大楠」、「砥上神社のイチイガシ」などがあります。



■上高場の大藤



■大己貴神社

④交通・道路

公共交通として路線バスと鉄道があり、通勤・通学をはじめ、身近な移動手段として重要な役割を果たしている。公共交通空白地域を解消し、町内の生活交通を確保するため、地域交通としてオンデマンドバスを運行しています。

⑤医療施設

本町の病院数は3施設、診療所は12施設、歯科診療所は10施設あります。

⑥学校・公共施設

筑前町の小学校は4校（三並、東小田、中牟田、三輪）、及び中学校は2校（夜須、三輪）あります。

⑦防災

気候変動の影響により毎年、災害が発生しており、特に、平成24年7月九州北部豪雨や令和2年7月豪雨、令和3年8月11日からの大雨による災害など大規模な災害が多発している中、町民の生命・身体・財産の保護や、被災を最小限に抑えた社会の機能維持、被災後の迅速な復旧復興が求められています。

⑧定住

町全体の人口は微増しているものの、山間部の小学校では児童数が減少するなど、地域によって人口にばらつきがあります。また、高齢化に伴って空き家が増加しています。自然の美しさやのどかな風景に魅力を感じ移住を希望する人もいますが、地域によっては移住者を受け入れることに不安を感じる傾向があり、円滑な移住受け入れは容易ではありません。

(2) 農村の多面的機能

農業は、食料を供給する役割のほか、生産をとおして、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など多様な役割を果たしています。これらの利益は住民全体が受けるものです。筑前町も農村は多面的機能を発揮しており、農村の地域資源にも恵まれています。今後も農業を維持することにより地域資源を保全し、多面的機能も維持することが望まれます。



資料：農林水産省

■イメージ図



■田園風景



■曾根田親水公園



■草場川の景観



■ど〜んとかがし祭

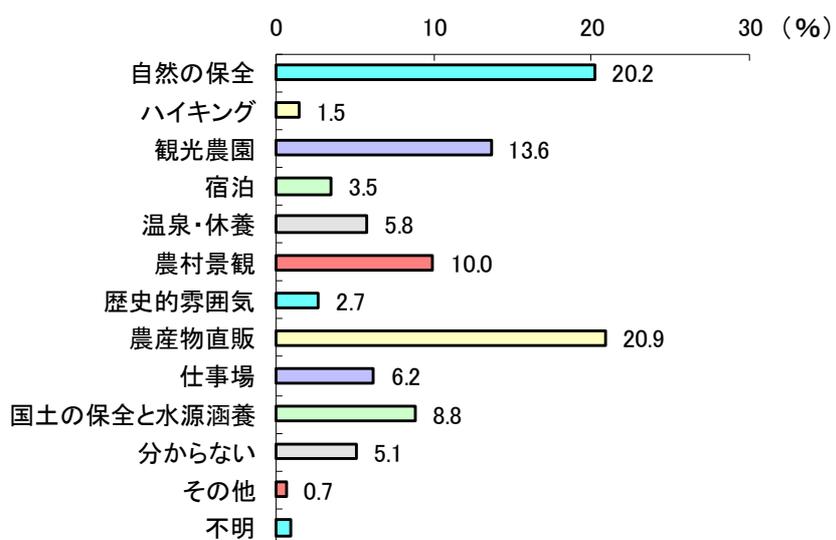


■目配山



■焼ノ峠古墳

アンケートによると、農村の多面的機能で期待するものについては、「農産物直販」が20.9%と最も多く、次いで、「自然の保全」20.2%、「観光農園」13.6%でした。



(3) 都市との交流

① 都市交流施設

筑前町は夜須高原を始め地域資源に恵まれています。農産物直売所が町内には4店舗が営業していますが、農業振興や地域活性化の一環としてファーマーズマーケットが開店します。緑や土とのふれあいができる市民農園があり、「ベジ食ブルランド収穫祭」などのイベントを開催し、消費者と生産者の交流をしています。

- ・ 安の里ふれあい農園 1区画あたり 6,000円/年
平成16年3月に開催、24㎡×84区画
利用者町内19名、町外36名（福岡市6名、大野城市5名、春日市6名、那珂川町1名、太宰府市6名、筑紫野市11名、小郡市1名）
- ・ 掘り取り園
さつまいも、じゃがいも、落花生、とうもろこし等の観光農園を2カ所継続



■安の里公園ーふれあいファーム



■夜須高原記念の森



■市民農園

②交流活動

筑前町は農産物直売所などイベントの開催、収穫など農業体験活動を実施しています。



■収穫祭



■三並小学校の児童による収穫



■農産物直売所のイベント
(クロダマル枝豆解禁イベント)

③農村情報発信

筑前町はホームページにイベントの開催など表示していますが、今後、農業関連の情報の都市への情報発信が課題です。

■観光行事（ショートトリップより）

Seasonal events

ちくぜんこよみ

12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月
●常所神社年末祈願大祭(宝くじ祈願) [12月5日/常所神社]「地図B3」	●どんどんかかし祭 [11月上旬/道の公園]「地図B3」	●大己貴神社秋季大祭(おくんち) [10月25日/大己貴神社]「地図C3」 ●コスモス開花 [10月下旬/11月上旬] あかふきの里(近所)「地図C4」	●虚空蔵菩薩祭り [9月13日/虚空蔵菩薩]「地図B3」 ●夜須温泉音楽祭 [9月下旬/夜須温泉]「地図D1」	●ひまわり開花 [7月下旬/道の公園]「地図C4」 あかふきの里(近所)「地図C4」	●ホトトスベスあさくら園まつり [7月下旬] ホトトスベスあさくら園「地図B2」	●四三船獅子舞し [6月下旬/道の公園]「地図A3」 ●田楽大舞子「道の公園」 四三船大舞子「地図A3」	●ほたるシーズン [5月下旬/6月上旬] 道の公園「地図B2」	●桜開花 [3月下旬/4月上旬/道の公園]「地図B3」 ●大藤まつり [4月下旬/道の公園]「地図B3」	●ピースキャンプ [3月27日/道の公園]「地図B4」 ●平和の碑のごとく [3月27日/熊ヶ山]「地図C4」	●大園標まつりと物産展 [2月11日/大園標まつり]「地図C4」	●虚空蔵菩薩祭り・餅まき [1月13日/虚空蔵菩薩]「地図B3」 ●いちご狩り [1月-8月上旬/道の公園]「地図B3」

5. 上位計画・関連計画

(1) 食料・農業・農村基本計画（国）（令和2年3月策定）

○食料の安定供給の確保

- ・新たな価値の創出による需要の開拓
- ・グローバルマーケットの戦略的な開拓
（農林水産物・食品の輸出額：5兆円を目指す（2030））
- ・消費者と食・農とのつながりの深化
- ・食品の安全確保と消費者の信頼の確保
- ・食料供給のリスクを見据えた総合的な食料安全保障の確立
- ・TPP等新たな国際環境への対応、今後の国際交渉への戦略的な対応

○農業の持続的な発展

- ・担い手の育成・確保
（法人化の加速化、経営基盤の強化、経営継承、新規就農と定着促進 等）
- ・多様な人材や主体の活躍
（中小・家族経営、農業支援サービス 等）
- ・農地集積・集約化と農地の確保
（人・農地プランの実質化、農地中間管理機構のフル稼働 等）
- ・農業経営の安定化
（収入保険制度や経営所得安定対策等の着実な推進 等）
- ・農業生産基盤整備
（農業の成長産業化と国土強靱化に向けた基盤整備）
- ・需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化
（品目別対策、農作業等安全対策の展開 等）
- ・農業生産・流通現場のイノベーションの促進
（スマート農業の加速化、デジタル技術の活用推進 等）
- ・環境政策の推進
（気候変動への対応、有機農業の推進、自然循環機能の維持増進 等）

○農村の振興

- ・地域資源を活用した所得と雇用機会の確保
（複合経営、地域資源の高付加価値化、地域経済循環 等）
- ・中山間地域等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備
（ビジョンづくり、多面的機能の発揮、鳥獣被害対策 等）
- ・農村を支える新たな動きや活力の創出
（地域運営組織、関係人口、半農半X等のライフスタイル 等）
- ・上記施策を継続的に進めるための関係府省で連携した仕組みづくり

(2) 福岡県農林水産振興基本計画（令和4年3月策定）

福岡県では令和4年3月、福岡県農林水産業・農山漁村振興条例（平成26年福岡県条例第51号）第7条第1項に基づき、農業・農村の持続的発展と県民の健康で心豊かな生活を実現するため、新たな農業計画を策定しました。

この計画では、消費者ニーズに対応した生産力やブランド力の強化、次代を担う「人材」の育成、家畜防疫の強化や地産地消といったワンヘルスの推進、頻発する気象災害を踏まえた防災・減災対策などの施策を中心に、稼げる農林水産業の実現に向け、取り組む施策の方向性を明確にしています。そして、その実現に向けた施策の展開方向として、5つの柱を設けています。（この他に、主要品目について振興方向を示しています。）

1) マーケットインの視点で生産力を強化

○ 消費者ニーズに対応した生産を促進

- ・優良品種・家畜、先進的な施設や機械等の導入により、品質向上と安定生産を促進
- ・優良種苗の安定供給を推進
- ・鮮度保持や一次加工、出荷規格の見直し等により、消費者ニーズへの対応力を強化

○ DXを推進し、高品質・高収量・省力化を実現

- ・生産から販売、消費までのデジタルデータを収集・分析し、次期作への利活用や経営改善を促進
- ・デジタル化した物流情報を共有・活用できるシステムを構築し、物流の効率化を推進・AIやIoT等のスマート技術やロボット技術等を導入し、高品質・高収量・省力化を実現
- ・農産物知的財産戦略を推進

○ 生産基盤を強化し、集約化と大規模化を推進

- ・農業水利施設等の計画的な整備により、生産基盤を強化
- ・農地の大区画化や集積・集約化を促進

2) 「選ばれる福岡県」に向けてブランド力を強化し、販売を促進

○ 世界に福岡の農林水産物等の魅力を発信し、輸出を拡大

- ・市場調査やニーズ把握を強化し、県産農林水産物や加工品の輸出を拡大
- ・輸出先国の規制に対応した輸出産地づくりを推進
- ・現地でのフェア開催等による情報発信を強化し、県産農林水産物等の認知度を向上
- ・九州各県等と連携した農林水産物のPR、販売を促進
- ・海外での品種登録・商標登録により、知的財産を戦略的に活用

○ 県独自品種や新技術の開発・普及を加速

- ・気候変動や消費者・実需者ニーズに対応した新品種の開発を加速
- ・現地実証の拡大により、新品種の普及を迅速化
- ・生産現場と連携し、高品質化・低コスト化技術を開発・実証

○ 福岡の農林水産物等の認知度向上と販売を促進

- ・首都圏や関西圏等での販売促進活動を通じ、県産農林水産物や加工品の一体的な売込みを強化
- ・有名店での「福岡フェア」の開催や大規模な大会等でのPRにより、県産農林水産物等の認知度を向上
- ・外食事業者等のニーズの把握と産地へのフィードバックを強化
- ・消費者ニーズを捉え、付加価値の高い6次化商品の開発を促進
- ・共同輸送等で流通コストを削減し、県外での有利販売を促進

3) 農林水産業の次代を担う「人財」を育成

○ 農林漁業者の経営発展を推進

- ・農業大学校を拠点としたリカレント教育により、先進技術等に対応できる人材育成
- ・農林漁業団体と連携し、農林漁業者への技術指導を強化
- ・農業経営の複合化・法人化、雇用導入等により、経営を強化

○ 産地の受入体制を強化し、新規就業者の確保・定着を促進

- ・就業希望者への相談・斡旋体制を強化
- ・農業大学校の機能強化やトレーニングファーム等の地域に密着した研修機関の整備により、就農前後の支援を強化
- ・労働環境の改善を通じ、林業の担い手を確保
- ・地域での研修や受入体制づくりにより、漁業就業者の定着を強化

○ 女性農林漁業者の能力発揮を促進

- ・女性農林漁業者へのリカレント教育や起業活動支援により、女性経営者を育成
- ・男女共同参画社会の実現に向け、農山漁村における女性農林漁業者の社会参画促進

○ 農福連携を推進

- ・農業者に対する農福連携への理解を促進
- ・関係団体と連携し、農業分野での障がいのある方の活躍の場を拡大
- ・障がいのある方が働きやすい環境整備を促進

4) 持続可能な農林水産業に向けワンヘルスを推進

○ ワンヘルスの実践につながる地産地消や食育を推進

- ・農林水産物のワンヘルス認証制度等を通じ、県民のワンヘルスへの理解を促進
- ・農林漁業応援団づくりや魅力ある直売所づくり等により、地産地消の取組を強化
- ・産地との連携を強化し、学校給食における県産農林水産物の利用を拡大
- ・農林漁業体験や生産者との交流、食文化の発信等を通じ、食育を推進

○ 環境に配慮した生産と食の安全・安心を推進

- ・減農薬、減化学肥料栽培など、環境に配慮した農業を推進
- ・GAPや集荷・加工施設の衛生管理の強化により、安全・安心な農林水産物等の生産を推進
- ・県民の「食」の選択に必要な適正な食品表示を推進

5) 安心して住み続けられる農山漁村づくりを推進

○ 防災・減災対策を強化

- ・ 農業水利施設等を活用し、流域治水を推進
- ・ 計画的な森林整備と治山施設やため池、漁港等の適正な管理や整備により、防災機能を向上
- ・ 地域の実状に合った防災施設の整備や農地の利用を推進し、災害リスクを低減
- ・ 被災した農林水産施設を速やかに復旧し、農林漁業者の生産継続を支援
- ・ リスクに備え収入保険制度等への加入を促進

○ 中山間地域をはじめとした農山漁村の活力を向上

- ・ 中山間地域の特性に合った収益性の高い農林産物の栽培や特産物づくりを推進
- ・ 地域資源を活かした農泊等の取組により、魅力ある農山漁村づくりを促進
- ・ 企業や都市住民等の参加や移住定住の促進で、農山漁村を支える多様な人材を確保

○ 農山漁村の多面的機能を維持・強化

- ・ 地域の共同活動等の支援を強化し、農地の保全や水路等の維持を推進
- ・ CO₂吸収等の公益的機能を発揮できる森林づくりを推進
- ・ 荒廃農地の発生を抑制するとともに、再生を支援

○ 鳥獣被害対策を総合的に展開

- ・ 里山保全の取組等により、侵入防止を徹底
- ・ 狩猟者等の人材育成と市町村の枠を越えた広域的な取組により、捕獲体制を強化
- ・ 「ふくおかジビエ」の魅力発信と加工用途の拡大により、獣肉の利用を促進

計画期間

令和4年度～令和8年度

(3) 筑前町食料・農業・農村基本条例（平成20年12月策定）

○ 目的

筑前町の食料、農業及び農村のあり方についての基本理念及びその実現に必要な基本的施策等に関する事項を定めることにより、筑前町の農業が持続的に展開し、農業及び農村の持つ多面的機能が発揮され、豊かで住みよい地域社会の実現に寄与することを目的とする。

○ 基本的施策

- (1) 消費者が安全で安心できる農産物を入手し、食及び農に対する信頼感を保つために必要な産地情報の提供等の施策
- (2) 学校、家庭、社会教育機関及び地域社会等と連携して次に掲げる目的を達成するために必要な施策
 - ア. 食の重要性や地域農産物の生産・流通事情等の理解の促進
 - イ. 健康的な食生活の推進
 - ウ. 地域の食材を活かした食生活の推進
- (3) 農業及び農村に関する情報の提供、生産者と消費者の交流等による農業及び農村

- の有する生産及び多面的機能に対する町民の理解の促進に必要な施策
- (4) 町内の学校給食等の食材として、地域で生産された農産物を提供し、地域の農業及び農産物に対する理解を促進する施策
 - (5) 農業の生産基盤であるほ場、農道、農業用排水路、ため池等の整備及び遊休農地の解消等による優良農地の確保に必要な施策
 - (6) 効率的で安定的な農業経営体を基本に、女性農業者、若年農業者、高齢農業者、新規就農者等の多様な担い手の育成及び確保に必要な施策
 - (7) 年間を通じて栽培される作物の振興、高品質優良農産物生産の推進による農業の収益性向上並びに経営の安定を確保できる農業の仕組みづくり及び支援に必要な施策
 - (8) 農業者及び農業団体、食品産業の事業者並びに消費者の連携強化による地域で生産される農産物の地域内での流通及び消費の促進に必要な施策
 - (9) 産学官及び農商工連携による農業関連技術の研究開発及び製品化に必要な施策
 - (10) 農薬及び肥料の適正な使用、バイオマスの利活用等による環境と調和した農業等の推進に必要な施策
 - (11) 中山間地域等の総合的な振興を図るため、農業生産基盤及び生活環境を一体的に整備するための必要な施策
 - (12) 農業及び農村の持つ多面的機能を十分に発揮させるための環境整備の推進に必要な施策
 - (13) 女性農業者の社会的経済的地位の向上、農業経営及び農業政策等の意志決定への参画の促進等の条件整備による農村における女性の持つ力が発揮される男女共同参画社会の確立に必要な施策

(4) 筑前町総合計画 (令和2年3月策定)

○ 農林業の振興

「若者や女性が働く魅力を感じる農林業経営を推進します。」

「農村環境を保全する地域力を高めます。」

「地産地消を促進し 6次産業化の取組を支援します。」

- ・ 農地の有効活用と効率的な利活用の推進
- ・ 経営感覚に優れた担い手の育成・確保の推進
- ・ 農業施設や林道・作業路網の整備
- ・ 荒廃森林・放置竹林の整備
- ・ 増大する有害鳥獣被害への対策
- ・ 6次産業化の推進と農産物のブランド化・販売拡大による所得向上

○ 観光交流の推進

「観光振興を目的とした協議会を組織し 稼げる観光地域づくりに取り組みます。」

「観光PR活動を強化します。」

「町全体でおもてなし体制の整備に取り組みます。」

- ・ 地域観光資源の活用と情報発信の強化
- ・ 観光を視野に入れた地域産品の開発
- ・ 観光客が気軽に参加できる祭り・イベントの充実
- ・ 観光客の受け入れを視野に入れた地域・公共交通の整備

6.現状と課題

分野	現況特性	住民意向	条例	町総合計画（課題と取組み）	国の食料農業農村基本計画	課題
食料	<ul style="list-style-type: none"> ・自給率は150%を超えている ・筑前町食育基本計画の改定（R2.2） ・直販所の充実（とまと、いちご、じょんやま市場、やまびこ及びみなみの里） ・特産品はクロダマル、木酢、イチゴ、ナシなど ・「ちくぜん食の都づくり宣言」 	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全への不安を持つ人が多い ・食品表示、農薬、輸入品への不安 ・農産物は鮮度と価格を重視 ・町内で食料を買う人は7割で、スーパーが多い ・直販所は安心安全と新鮮が重要 ・9割の人が朝食をとっている ・6割の人が週に15回以上米を食べている（前回は8割） ・規則正しく3食とる、無駄にしない、感謝が食育では重要 ・献立では栄養と家族の好みに気を配る ・7割の人が日本型食生活をしている（前回は9割） ・7割の人が外食は週に1回以下（前回は8割） ・自給率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者が安全で安心できる農作物を入手 ・食と農に関する信頼 ・必要な産地情報の提供 ・食の重要性や生産流通の理解 ・健康な食生活の推進 ・地域の食材を活かす ・学校給食を地域で生産された食材 ・農業者、食品産業、消費者の連携強化による地域内生産、流通、消費 ・産学官と農商工連携と研究開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消を推進し6次産業化を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 1.食料安定供給の確保 ○新たな価値の創出による需要の開拓 ○グローバルマーケットの戦略的な開拓：農林水産物・食品の輸出額：5兆円を目指す2030 ○消費者と食・農とのつながりの深化 ○食品の安全確保と消費者の信頼の確保 ○食料供給のリスクを見据えた総合的な食料安全保障の確立 ○TPP等新たな国際環境への対応、今後の国際交渉への戦略的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部と連携した流通 ・食品産業との農商工連携 ・筑前町食育基本計画に沿った日本型食生活の推進 ・地産地消の推進 ・消費者への食の安全安心と鮮度の提供
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・町全体の世帯の6.7%が農家 ・農業者は就業者の8%以下で担い手減少中 ・20年間で販売農家が半減、特に兼業農家 ・基幹的農業者の高齢化で60才以上が過半数 ・認定農業者131人。 ・経営規模は2.0～3.0ha未満が多い ・ほ場整備が100%完了した、30年経過した地区あり、暗渠排水機能の低下、ため池老朽化 ・中山間地域直接支払、多面的機能支払交付金制度の実施、農業施設の維持力低下 ・優良農地が多い水田が多くを占める ・耕地利用率は県内で一番高い ・耕作放棄地は3.0%と少ない ・土地利用型農業で、米、小麦、大豆が中心 ・農業産出額の5割が畜産（卵と乳牛） ・きゅうり、レタス、キャベツ、タマネギ、ネギ、ナスが生産されている ・スマート農業導入や有機農業取組み中 ・6次産業化推進、木酢シャーベット等新たな加工・販売に取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業で重要なものは、地域にあった作物、ブランド、担い手、地産地消 ・農産物直販所は町内に設ける意見が3割 ・生産者と消費者の関わりは、地元農産物の購入と交流や手伝い ・新規就農への支援 ・用水路などの改善 ・集落営農や担い手確保 ・大規模農業の推進 ・意欲ある農業者が中心となるしくみ、有機農業への推進、高齢者が続けられる農業、新規就農者支援は重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場整備、用水路、ため池、農道の整備 ・遊休農地の解消と優良農地の確保 ・女性、若者、高齢、新規の農業者の育成確保 ・高品質優良農産物の生産による収益向上 ・経営の安定確保 ・農薬や肥料の適切な使用、バイオマスの利活用による環境と調和した農業 ・中山間地域の総合的な振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の有効活用と効率的な利活用推進 ・経営感覚に優れた担い手の育成・確保の推進 ・農業施設や林道・作業路網の整備 ・6次産業化の推進と農産物のブランド化・販売拡大による所得向上 ・若者や女性が魅力を感じる農林業経営【取組】 ・経営規模拡大、農地集約による効率化 ・ICT活用でスマート農業の研究や検討 ・女性の就業・起業推進と働きやすい環境の整備 ・後継者や新規就農者の支援体制確立 ・高収益化や技術継承の簡易化取組支援 ・6次産業化や地域ビジネス基盤の構築 ・6次産業化による雇用創出・所の向上 ・農業施設の適切な維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> 2.農業の持続的な発展 ○担い手の育成・確保：法人化の加速化、経営基盤の強化、経営継承、新規就農と定着促進等 ○多様な人材や主体の活躍：中小・家族経営、農業支援サービス等 ○農地集積・集約化と農地の確保：人・農地プランの実質化 農地中間管理機構のフル稼働等 ○農業経営の安定化：収入保険制度や経営所得安定対策等の着実な推進等 ○農業生産基盤整備：農業の成長産業化と国土強靱化に向けた基盤整備 ○需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化：品目別対策、農作業等安全対策の展開等 ○農業生産・流通現場のイノベーションの促進：スマート農業の加速化、デジタル技術の活用推進等 ○環境政策の推進：気候変動への対応、有機農業の推進、自然循環機能の維持増進等 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営感覚に優れた、多様な担い手確保の推進 ・法人化や新規就農、集団化や受委託の推進 ・女性が魅力を感じる農業経営 ・農地の有効活用と米、大豆や麦の維持 ・6次産業の推進とブランド化による所得向上 ・気候、地形を生かした果樹、野菜づくり、花きの施設化を推進 ・スマート農業を進め、効率化・自動化を目指した生産基盤整備を推進し、安定性、収益性の確保 ・環境保全、有機農業の推進
農村	<ul style="list-style-type: none"> ・水洗化率は8割を超えた ・1人当たりの公園面積は7.06㎡/人と少ない ・歴史文化資源は、文化財10件 ・多面的機能は、水田を中心に国土保全、景観保全、環境保全など発揮 ・191万人の観光客。日帰りで県内客が多い ・夜須高原などの地域資源に恵まれている ・筑前町立大刀洗平和記念館、大乙貴神社等の歴史資源 ・朝倉グリーンツーリズム協会は体験型教育旅行（修学旅行、農家民泊）に取り組み ・ガイドマップや若手農家とレストランのコラボ等の多様な情報発信に取り組み ・みなみの里に手みやげ屋さんや道の駅併設 ・有害鳥獣による被害が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的機能で期待するのは、自然の保全、農産物直販、観光、景観 ・生活環境では、自然環境の保全、防災対策、道路・交通が重点 ・都市との交流では、農産物直販、情報発信、教育の場、農業支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業、農村情報の提供 ・生産者と消費者の交流による多面的機能の理解 ・農業農村の多面的機能を発揮させる環境整備 ・女性の社会経済的地位の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域観光資源の活用と情報発信の強化 ・観光を視野に入れた地域産品の開発 ・祭り・イベントの充実 ・観光情報の提供や案内板の設置 ・農村環境を保全する地域力を高める【取組】 ・ICTを活用した効果的・効率的な有害鳥獣対策 	<ul style="list-style-type: none"> 3.農村の振興 ○地域資源を活用した所得と雇用機会の確保：複合経営、地域資源の高付加価値化、地域経済循環等 ○中山間地域等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備：ビジョンづくり、多面的機能の発揮、鳥獣被害対策等 ○農村を支える新たな動きや活力の創出：地域運営組織、関係人口、半農半X等のライフスタイル等 ○上記施策を継続的に進めるための関係府省で連携した仕組みづくり ○新型コロナウイルス感染症をはじめとする新たな感染症への対応 ○東日本大震災からの復旧復興と大規模自然災害への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に関する情報発信のしくみづくり ・地域資源を活かした農業と観光の創出 ・地域資源の活用による都市との交流 ・祭り、イベントをとおした農業の理解と支援 ・自然環境の保全 ・農地の維持と多面的機能の発揮 ・安心安全で住みやすいむらづくり ・防災や道路・交通等の生活環境の向上 ・有害鳥獣対策
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖多雨 ・平坦地が多く肥沃な土壌 ・交通は福岡市へ1時間 ・農地が多いが人口が3万人を超え都市化が進行 					<ul style="list-style-type: none"> ・食料・農業・農村が一体となった筑前町の資源を活かした持続的発展 ・消費者・農家・事業者・行政が連携した計画と実行